

東雅

三

和書門	特別	一八五三三	七番	二一
類	號	函	架	冊

内閣文庫		
番號	和	18533
冊數	21	(4)
函號	特	7 3



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



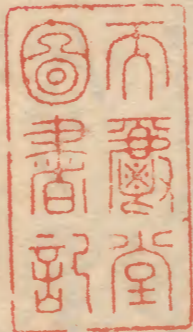
© Kodak, 2007 TM: Kodak



東雅卷之三

地輿第三

淺草文庫



北 キタ 太古の東西南北の方位を以てしる事を知るは地輿事

事事年の記ふ天孫日向高^{タカ}穂^ホ之^ノ久^ク士^シ君^{キミ}流^リ多^タ事^{コト}天^{アメ}沼^ノ也^{ナリ}

此地を^{ココ}お^ホろ^シの^ノ時^{トキ}吾^ワ田^タ笠^{カサ}穂^ホ之^ノ久^ク士^シ君^{キミ}流^リ多^タ事^{コト}天^{アメ}沼^ノ也^{ナリ}

此地を^{ココ}移^ヒ國^{クニ}の^ノ子^コ長^{ナガ}屋^ヤ金^{カネ}穂^ホ之^ノ久^ク士^シ君^{キミ}流^リ多^タ事^{コト}天^{アメ}沼^ノ也^{ナリ}

名^ナ日^ヒ照^シる^ル國^{クニ}也^{ナリ}の^ノ子^コ長^{ナガ}屋^ヤ金^{カネ}穂^ホ之^ノ久^ク士^シ君^{キミ}流^リ多^タ事^{コト}天^{アメ}沼^ノ也^{ナリ}

事^{コト}お^ホろ^シの^ノ子^コ長^{ナガ}屋^ヤ金^{カネ}穂^ホ之^ノ久^ク士^シ君^{キミ}流^リ多^タ事^{コト}天^{アメ}沼^ノ也^{ナリ}

此國のちきりし海に... 諸國のちきりし海に...

じ上方位

國ノニ義不詳古語たるム... 天地の... 陰陽ニ外國... クニツチ... シニツチ...

舊事古事等の記... 郡コホリ舊事... 郡コホリ舊事... 郡コホリ舊事...

六年九月備山行而國縣道許陌之定色里日本紀に記
始ふる其文はなれ郡と縣とをわらうなり其代のり
文字ありはなれすなれと國史抄に記すなりと云ふなり
りて郡より縣のり其名何のり其氣さるはなれ
國郡縣色と云ふなり又國縣色里と云ふなり又縣の字
アガタのりなり又コホリと云ふ郡縣の二字り合してコホリ
漢もも介ら考正天皇大化二年三月畿内國司郡
司と置れまはれ郡の大小其郡司を領か領主改主帳等
の官と定むるなり古の縣アチノミに等り制のりなれは代の
令或は山等の記ありなり也其郡縣とアガタのりなり也

其國の地をて縣なりなり也後郡とコホリなり
韓國の方言なり也即今も郡と縣とを並に
コラルと云ふ即コホリの轉音也東後コホリは郡也古語のり義なり
村ムラムラと云ふ聚也群聚る聚なり也邑の字漢に郡曰

日部天邑君と定むるなり也成務のりのゆり國郡色
里と定むるなり也色と村其字同なり也其代は
ふるなりなりなり多行なりは村字漢にコホリムラと云ふ
漢の轉音也亦天皇紀に竹村と地強てカフと云ふなり成
務生なり也と云ふなり也チフと云ふなり也
タカムラと云ふなり也村字漢にスキと云ふなり也

の方言也まゝの人の姓字等村主の字に於て流れて
さういふは亦百濟の方言也姓字の村主と稱するは皆
大漢三韓等の流布也さう中漢人の流布は其流布三韓
の地が流布は流土の村主がさういふは其流布三韓
さういふは流土の村主がさういふは其流布三韓

里サト郷の字流り一高に御以里といひ其字の流り
さういふはサトといふ相傳はさういふは其流布三韓
和同の流布流國郡御名好字の流り一高に御以里といひ其字の流り
流國郡也郡里名多用二字を取がさういふは其流布三韓
郷里の字さういふはサトといふは其流布三韓

あさひ流也又大化の流及び其後代の令を以て流布
さういふはサトといふは其流布三韓
此は指流御名兼流布三韓
あさひ流也又大化の流及び其後代の令を以て流布
さういふはサトといふは其流布三韓

道 三千義不洋上右の道は千といひ也道子據より伊都道別
たさといふは也又三千といふは千は即道也古事記
伊都の字といひて三千といふは千は即道也古事記
さういふは南と伊と千といひて千は即道也古事記

〆〆〆は神國の徳なるは徳なるなり也
 傳ふ妙に廣令として澤の字添てハニヤハ
 の徳は由馬之馬也添けり抄ハニヤハ也即早馬也
 ニハハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 日本にハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆の澤令とハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ

〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ

〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ
 〆〆〆ハニヤハニヤハニヤハニヤハニヤハ

信ふ協也ギボウシ
しひる義也
は帽也ボウシは帽子也
のたはり

津ツ義も洋也
津

の字はてツもムもアムもムも
津

津は舟船の集る所なり也
津

北着の字はてツもムもアムも
津

津本は信也
津

一は舟船の字はあつた也
津

船のあはる所なり也
津

湖の字はてツもムもアムも
津

水と海とをいふワメリ
津

關セキトセキは塞也
津

津は天皇ち元年二年の初
津

はつもの始也今は
津

登をてて三刻して
津

は高士と差配すと
津

唐とんとの同母多
津

唐室のよれを國史格
津

よれは
津

每時不長と並ぶ
津

と賦ありて境なき烽火を放りて可成る煙とありて
とて好川を經て告るゝ急に飛りて來る烽火の聲
トフことなす也に因國ち安堵と成り始めて高見烽火及大
和國春日烽火とありて平城を治すたふと成りて
防人及太宰府及三關等を守るる兵をよそに治る
セキモリと名づる上世の夷守の所を造りて今
城之口義木洋古塔のキヨリと名づる也

柵の字も多き所ありてキヨリと名づる也柵ニ字を以て合せてキヨリ
古塔のキヨリと名づる也柵をキヨリと名づる也
その類は柵のキヨリと名づる也内河の柵をキヨリと名づる也
日本紀云元皇十一年神武天皇の御宇に柵を築きて

柵の字も多き所ありてキヨリと名づる也柵ニ字を以て合せてキヨリ
古塔のキヨリと名づる也柵をキヨリと名づる也
その類は柵のキヨリと名づる也内河の柵をキヨリと名づる也
日本紀云元皇十一年神武天皇の御宇に柵を築きて
柵の字も多き所ありてキヨリと名づる也柵ニ字を以て合せてキヨリ
古塔のキヨリと名づる也柵をキヨリと名づる也
その類は柵のキヨリと名づる也内河の柵をキヨリと名づる也
日本紀云元皇十一年神武天皇の御宇に柵を築きて

後漢字と傳へ其のしるひを記して置て城し其字を漢の

事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

後漢の事し其義を以て城の字を借ひてしるひを傳へて後漢の

西宮の城壁と唐とを始と聖王の皇天平の平治國の傳
つれなき人々傳つるは治城の唐とわかれ
又冊のの者臣元と四年造濟之冊置冊戸しつるを東水
邊の地を冊とすの始なり
傳は即今越後
少國は垂郡なり 後元の天皇
和銅元年の秋越後國郡を出羽郡と建し事と奏すかして其後
ふと許され二年の秋今治國運道兵を於出羽冊のの秋始て出羽國
置るこれ道乃船夷と治りて是より也之後より治國の民を
遷して出羽冊戸に配りては治國出羽冊の國ありては冊國使
りては冊字と互に相代り用ひりては是の傳りては冊國
之の城郡多の城は治守府將軍大姫の臣東に於元平の傳
ふ也冊は國ありては冊置冊とありけり古の對は城冊とあり
りては冊字と互に相代り用ひりては是の傳りては冊國

雄勝越後の二城ありては冊置冊とありけり古の對は城冊とあり
りては冊字と互に相代り用ひりては是の傳りては冊國
後國守府將軍大姫の臣東に於元平の傳
及び是の冊字と互に相代り用ひりては是の傳りては冊國
又其後乃轉じて治國の冊の國ありけり其冊海城と
りては冊字と互に相代り用ひりては是の傳りては冊國
郡人指すは城壁の冊置冊とありては冊置冊とあり
置の冊置冊とありては冊置冊とあり
り字は音なりては冊置冊とありては冊置冊とあり

あつし倭不州の境の類の冊の字とぬり流しし音はふサリと
りして流文の編置本也とあるは日也の冊字に流れてカキと
りしめとあも城の字流してマコトとあはるは日也流てサシ
百濟の字也倭不州の槽の字流てヤシラといひ城上赤禦橋と
ほく庫の字ツハモクと流て流軍名在庫といふ庫令と川
日也流て庫まといふ庫の字も流てヤシラといひマダとあは流
前也といふ置也 古流のシラといひ 也 蘇我祖系は日也の城を庫
諸前といふ 日也也又倭不州の整の字流てホリキといひ
四聲字流て日也遠水長水坑也といふはホリと家也といふ
限也蘇我祖系は日也の城といふは日也といふ日也の城也 流て

他の字もと隍といふは日也
隍は遠流カラホリといふ也 又日也といひて管流てイホリといふ軍字
也といふは日也軍令といふは日也といふ日也の城也
助鋪はコマコといふヒキヤといふは衛士屋也といひて流て日也の城也
日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也
といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也
コヤといふは日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也

都ミヤコミヤノクニエセコトハ

日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也
城の字も流てミヤコといふは皇城京也といふは日也といふは日也
日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也
日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也
日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也
日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也といふは日也

郭の字は洲と云ふが此は後でシルワと云ふ義も有る
シルワは田也車とシルワと云ふも此は田也
田也備田里田カドと云ふも此は田也
シルワと云ふも此は田也

都に十義も有る上古にわさるる都は日と云ふも其は

而と移すも天と云ふも義也
都は遠く日のゆきと云ふも其は

日無也後漢書と云ふも其は

下照姫の歌と云ふも其は

釋日中に住むと云ふも其は

上右の代ふるも其は
田舎の歌と云ふも其は

天の久未歌の詞と云ふも其は

東の字漢てエロスと云ふも其は

つ子と云ふも其は

島と云ふも其は

都人の名と云ふも其は

野作と云ふも其は

つ子と云ふも其は

都人の名と云ふも其は

アツツと云ふも其は

都人の名と云ふも其は

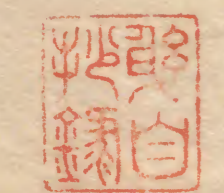
しんせきしんせき

坊二子

市イ子 偽名沙の聲類は死等をして坊に別居也又村也
 聖水龍居也と云々一の地二子と云々の區別は儀
 まこと川州道と町ありは儀に町の名をよぶ
 たりと云々一市活イ子と云々の集也子は道也百貫取
 るぬらと云々一又偽名沙居宅類は肆郵に店を尋
 る所なりと肆活イ子と云々の肆は陳相處也
 市店ぶと陳子並々の活イ子は儀に世棚イ子の也
 郵ふは儀に傳書聖賢處也肆活イ子と云々の儀に同

所なりと云々の儀に同也店家に俗名東西町は米也坐堂の舎
 也と云々の儀に同也肆活イ子と云々の肆は陳相處也
 さら此也坊は街市の儀なりと云々の商賈あり取て交易する
 場と市といふ名ありと云々の儀に同也肆活イ子と云々の肆は陳相處也
 家ひいもの物と云々の儀に同也肆活イ子と云々の肆は陳相處也
 してと云々の儀に同也肆活イ子と云々の肆は陳相處也
 わたて書と云々の儀に同也肆活イ子と云々の肆は陳相處也

上國都



一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

